

第1学年 音楽科学習指導案

平成15年6月27日(金)
指導者 東広島市立志和中学校
教諭 金森 信午

1 学年・学級

1年2組 男子23名 女子15名

2 題材名

「篠笛に親しもう」
～ 篠笛とリコーダーとの比較を通して ～

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、篠笛の演奏を鑑賞したり、実際に演奏したりすることによって、和楽器の音色や奏法などの表現の特徴を感じ取らせることをねらいとして設定した。

中学校学習指導要領解説音楽編では、表現の指導内容について、「特定の時代、地域、あるいは特定の様式の音楽に偏りがちであったと言う傾向が見られることが多かった」と述べている。また「我が国の風土や文化・歴史の中ではぐくまれ伝えられてきている音楽文化を継承し、さらに新たな音楽文化を生み出すことへとつないでいくことが大切である」と示し、我が国の伝統音楽を取り扱う重要性を強調している¹⁾。しかしながら、今日の中学生が日頃親しんでいる音楽は、そのほとんどが西洋音楽の流れを汲むものであって、我が国の伝統音楽に接する機会は少ないと考えられる。

そこで、我が国の伝統音楽をより身近なものとして捉えさせるために、教材として篠笛を取り扱うこととした。篠笛は、他の和楽器と比べ購入価格も安く入手しやすいうえに、手入れや修理などの管理がしやすい。また、篠笛は我が国の文化・歴史等にはぐくまれてきた楽器である。その奏法の最も特徴的なものの1つに、同じ音が続くときも、リコーダーのようにタンギングを用いず、指をはねることによって吹くことがあげられる。なめらかになく感じ、切れ目なく吹くことが美しい吹き方とされている²⁾。それを実際に鑑賞させたり演奏させたりすることによって、和楽器のよさや美しさなどを感じ取らせることができると考える。

1) 文部省「中学校学習指導要領(平成10年12月) 解説 - 音楽編 -」東京、教育芸術社、1999、p.19.

2) 浦田健次郎ほか「中学生の器楽 研究・伴奏編」東京、教育芸術社、2002、p.68

(2) 生徒観

第1学年では器楽指導の一環として篠笛を扱い、授業を展開している。篠笛導入に際しての実態調査結果から、篠笛の演奏の経験がありその表現技能をもっている生徒は1年生75名中、4名しかいないことが分かった。しかし、多くの生徒が展開当初から、篠笛に対する興味・関心を強く示し、音を出すことなどに意欲的であった。

また、第1学年では総合的な学習の時間において「地域」というテーマの中で、志和町に伝わる伝統芸能である「吹き囃子」³⁾を取り扱っている。「吹き囃子」では、篠笛を使用するため、ここにおいても篠笛の練習を積み重ねている。

一方、リコーダーについては、小学校の器楽指導で用いられている。そのため生徒にとって、リコーダーの音色や奏法は馴染みの深いものになっていると考えられる。

(3) 指導観

指導にあたっては総合的な学習の時間における「吹き囃子」と関連させながら、篠笛の音色の美しさや我が国の伝統音楽における特徴を感じたり理解させたりできるようにする。

また、篠笛の音色や奏法の特徴をより明確に捉えさせるために、西洋音楽の楽器の1つであり、生徒が小学校の頃より慣れ親しんできたソプラノリコーダーと比較させることとした。

さらに、その特徴の違いをより深く探求させるために、個人・グループ・一斉の学習形態を授業の展開によって工夫することとした。これによって、最終的に一人一人の思考がより深められるものとする。

4 題材の目標

- (1) 篠笛の演奏を鑑賞したり、実際に演奏したりすることを通して、篠笛の音色や奏法に興味・関心を持たせる。(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 篠笛の音色や演奏表現の豊かさ・美しさを感じ取り、それを生かした表現を工夫させる。(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 篠笛の演奏を通して、篠笛の奏法及び、数字譜の読み方など基礎的な表現技能を身につけさせる。(表現の技能)
- (4) 篠笛の音色や演奏表現の豊かさ・美しさを感じ取り、それを意識して聴取させる。(鑑賞の能力)

³⁾ 「吹き囃子」に関する歴史的書物は現存していない。そこで、平成14年5月2日に、志和町堀在住で、吹き囃子保存会・会長の佐々木勉吉氏に、伝承されている事柄についてインタビューを実施した。詳細については、参考資料1を参照。

5 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
Bの評価規準	篠笛や、その音色と基礎的な奏法に関心を持ち、意欲的に表現しようとしている。	篠笛の音色や基礎的な奏法および表現方法を感じ取り、それを生かして表現している。	篠笛の基礎的な奏法および表現方法を身につけている。	篠笛の音色や演奏表現の豊かさ・美しさを感じ取り、それを意識して聴取している。
Aの評価規準	楽しんで演奏できる篠笛曲を増やし、学習に生かそうとしている。	篠笛の音色に気をつけて、音の出し方や基礎的な奏法を工夫している。	篠笛の基礎的な奏法および表現方法を身につけ、篠笛曲を演奏している。	様々な楽器の良さを感じとって聴取している。
Cへの手だて	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標を明確にし、具体的な課題を見つけられるようにする。 学習形態（一斉学習・グループ学習・個別学習・ペア学習など）を効果的に組み合わせる。 学習の過程やまとめの段階で、学習活動の方向や深まりに気づくよう声をかけたり、評価をしたりする。 			

6 指導と評価の計画（全7時間）

（学習指導計画）

次	学習内容 [時数]	評 価					形態			
		関心	感受	技能	鑑賞	評価規準	評価方法	一斉	グル	個別
第一次	【ふれる】[2] 篠笛にふれる。 <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で実施された、「吹き囃子」保存会の講話、演奏のビデオを見る。 教師の範奏を聴く。 篠笛で音を出してみる。 わらべ歌を数曲演奏する。 				○	ア 篠笛や、その音色と基礎的な奏法に関心を持ち、意欲的に表現しようとしている。 エ 篠笛の音色や演奏表現の豊かさ・美しさを感じ取り、それを意識して聴取している。	行動観察 ⁴⁾ 自己評価表 ⁵⁾			

⁴⁾ 行動観察の記録補助簿については、参考資料2を参照。

第二次	<p>【知る】[2] 篠笛の様々な奏法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 篠笛でわらべ歌「ひらいたひらいた」を演奏する。 ・ 「指をピョン」「指でチョン」の奏法を知る。 ・ 1オクターブ違う高さの音の出し方を知る。 					イ 篠笛の音色や基礎的な奏法および表現方法を感じ取り，それを生かして表現している。	行動観察 自己評価表			
第三次	<p>【確かめる】[2] 篠笛とリコーダーを比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ひらいたひらいた」を篠笛とリコーダーで演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 篠笛とリコーダーを比較し，その違いを確認する。(本時) </div>	○				ア 篠笛や，その音色と基礎的な奏法に関心を持ち，意欲的に表現しようとしている。 ウ 篠笛の基礎的な奏法および表現方法を身につけている。	行動観察 自己評価表 ワークシート ⁶⁾	○		
第四次	<p>【まとめる】[1] 篠笛の様々な奏法を生かした表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ひらいたひらいた」の演奏を仕上げる。 					ウ 篠笛の基礎的な奏法および表現方法を身につけている。	行動観察 自己評価表	○		

7 本時の展開

(1) 本時の目標

篠笛とリコーダーを比較し，その違いを確認する。

(2) 観点別評価規準

篠笛の基礎的な奏法および表現方法を身につけている。

(3) 準備物

篠笛・リコーダー・ワークシート・自己評価表

⁵⁾ 自己評価表については参考資料3を参照。

⁶⁾ ワークシートについては，参考資料4を参照。

(4) 学習の展開(第三次 第2時)

学習活動	指導上の留意事項(○) (「努力を要する」状況の生徒, 「十分満足できる」状況の生徒への指導のポイント)	評価規準	評価方法	形態
<p>1 既習曲を歌う</p> <p>2 本時のねらいの把握をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>篠笛とリコーダーを比較し,その違いを確認する。</p> </div> <p>3 既習曲を演奏する。</p> <p>4 篠笛とリコーダーを比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の範奏を聴く ・ 「ひらいたひらいた」を篠笛で演奏する。 ・ 「ひらいたひらいた」をリコーダーで演奏する。 ・ 篠笛とリコーダーの違いを見つけ,表に記入する。 ・ 見つけた違いを,グループごとにまとめ発表する。 <p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 篠笛の特性を意識しながら演奏をする。 ・ 自己評価表を記入する。 	<p>○本時のねらいを明確に提示する。</p> <p>○音色・奏法の2項目に分け,篠笛とリコーダーとの違いを表に記入させる。</p> <p>机間指導をし,必要に応じてアドバイスをする。</p> <p>授業中に習ったことだけではなく,自分が気づいたこと,感じたことも記入させる。</p> <p>○個人の意見をグループ内で整理してまとめさせる。</p> <p>○篠笛の特性に対する気づきが深まるよう,評価をする。</p> <p>○指をはね,なめらかにつなぐ感じで,切れ目なく吹くことを意識させて演奏させる。</p>	<p>篠笛の基礎的な奏法および表現方法を身につけている。</p>	<p>行動観察 ワークシート</p> <p>自己評価表</p>	<p>一斉</p> <p>個別</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p>

参考資料 1

「吹き囃子」は、志和町の堀地区に伝わる伝統芸能である。その起源に関する書物は残されていない。しかし、地域には次のように言い伝えられている。

平安時代初期、征夷大将軍坂上田村麿(758～811)が東北遠征の際、連れ帰った捕虜に、志和地域を開墾させた。その捕虜の中の、京都に伝わる芸能に詳しい者が、現在の「吹き囃子」の基となる音楽を伝えた。その後、志和地域の中で、継承・発展され、現在の形式ができたのは、室町時代(年代不詳)に、志和町堀の大宮神社へ、京都の藤原京家吉田家(全国祭祀を司る官)から御幣(財)使が派遣され、そのにぎやかしとして奉納されてからという。以来、当時を偲び、大宮神社の秋祭りで奉納されている。尚、大宮神社は、大同2年(807年)、坂上田村麿勅願により創建され、国の政策として高級官僚藤原南家の支援に即した神社で、官社として扱われていた。

演奏には、篠笛、長胴太鼓、締太鼓、チャッパの4種類の楽器が使用され、町内を行列を組みながら練り歩き、最後は大宮神社へ奉納される。また、音楽のほかに、長胴太鼓の奏者が奏しながらする舞いと、「つえ」と呼ばれる棒状のものを持つ露払いが「つえ振り」を演じる。曲は、1. 祇園囃子 2. 三枚堂 3. 短い新囃子 4. 四ツ打ち 5. 数え歌 6. しゃぎり 7. 出雲 8. 高い山 9. 神おろし 10. 悪魔払い 11. 御所車 12. 声がわり 13. 長い新囃子 の13曲からなり、行列の道中、御呼ばれのお礼に3曲程度ずつ演奏される。その他に、ヒュ・・ヒュ・・ドン・ドン、きり笛、道中囃子(ヒヒロ)、道中囃子(ハラハラ)、道中囃子(オリヒリ)などが、道中に演奏される。

「吹き囃子」の活動は、ここ3年間はその活動が停止するなど、その存続が危ぶまれている。その原因は、子ども数が減少してきているためであると考えられる。こういった中、「吹き囃子」を教材として扱うことは地域文化を継承するために意義があり、地域に住む子どもたちにとって意味深いものになると考えられる。

参考資料 2

< 本時の行動観察記録補助簿 >

本時のねらい<篠笛とリコーダーを比較し、その違いを確認する。> 主な評価の観点<篠笛の基礎的な奏法および表現方法を身につけている。>		
生徒名	評価 (ABC)	所見
〇〇〇〇	A B C	

参考資料 3

< 自己評価表 >

音楽科自己評価表

1年()組()番 名前()

本時のねらい			
< 篠笛とリコーダーを比較し、その違いを確認する。 >			
月・日	忘れ物	自己評価のポイント	評価 (A B C)
		篠笛の音色とその演奏方法に関心を持つことができましたか。	
		篠笛とリコーダーとの違いを理解できましたか。	
		篠笛の特徴を意識して演奏することができましたか。	
感想・反省・課題			確認

参考資料 4

<ワークシート>

篠笛とリコーダーを比べよう
 1年()組()番 名前()

		篠 笛	リ コ ー ダ ー
音 色	「音そのもの」 (どんな感じがするの か?)		
	「メロディーのなめら かさ」 (なぜそうなるのだろ う?)		
演 奏 方 法	「楽譜」		
	「同じ音が続くとき」 (舌や息, 指の使い方 は?)		
	「1オクターブ違う高 さの音を出すとき」 (指や息は?)		